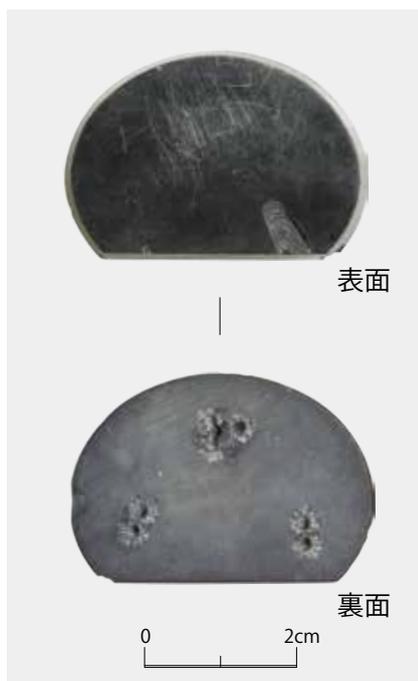


掘りday はちのへ

—八戸市埋蔵文化財ニュース第 27 号—



みつかった石帯の飾り具



竪穴建物跡からみつかったときのようす

市内 3 点目となる^{せきたい}石帯の飾り具を発見!! ～^{くまのどう}熊野堂遺跡～

熊野堂遺跡は八戸市長根に所在し、馬淵川沿いの標高 16m の低位段丘上に立地する、奈良時代から平安時代の遺跡です。これまでの発掘調査により 200 棟以上の古代の竪穴建物跡がみつかり、特に平安時代には集落の一部を堀がめぐる「環濠集落」または「防^あ御性集落」といわれる大規模なムラであったことが明らかになっています。

今回の調査では、平安時代の竪穴建物跡のカマドの脇から、石帯の飾り具がみつかりました。石帯とは、石で作られた飾り具をつけた革帯（ベルト）のことで、律令制のなかで官人などの身分や官位を示すものとして身につけられました。

今回みつかったものは長さ 4.0cm、幅 2.8cm、厚さ 6.5mm で、かまぼこの断面のような形をしています。こうした形の飾り具は「丸^{まるとも}鞆」とよばれています。色は黒色で光沢を帯び、とても滑らかな手触りです。

裏面に 2 個一対の孔が 3 ヶ所あり、この孔に銅線などの金属線を通し、革帯などに装着します。

石帯の飾り具は、これまでに八戸市内で 2 点、青森県内で 9 点しかみつかっておらず、古代蝦夷と律令国家の関わりを示す非常に貴重な出土品です。 (横山 寛剛)

縄文時代の^{まつがさき}大集落の調査②～松ヶ崎遺跡～

松ヶ崎遺跡は、新井田川とその支流の松館川に挟まれた標高約 27～45m の台地上に立地する、縄文時代中期を中心とした市内最大規模の縄文時代の集落跡です。

現在調査中の第 11 地点は、遺跡のほぼ中心に位置しています。長茅作付けに先立って、令和元年度から発掘調査を行っており、今回で調査 5 年目です。これまでに、縄文時代の^{たてあな}竪穴建物跡を中心に、^{ほったてばしら}掘立柱建物跡や^{どこう}土坑墓、^{もりど}フラスコ状土坑、^{いこう}盛土遺構など、多数の遺構がみつかっています。

昨年度に引き続き、盛土遺構の調査を行いました。盛土遺構を掘り進めて行くと、下から竪穴建物跡がみつかりました。盛土遺構と竪穴建物の土の堆積状況から、竪穴建物が使われなくなった後の^{くぼち}凹地に、縄文人がシカの骨や貝などのゴミ、土器や土砂などを長期にわたって大量に捨てて堆積していき、盛土遺構ができていったと考えられます。

調査区中央部から西側では、縄文時代の竪穴建物跡が多数みつかっています。元々の地面が見えないほどに、建物がいくつも複雑に

重なっており、同じ場所に何度も建物を造り替えたようすが窺えます。建物の規模は長辺約 6～8m、深さ 80～100cm 以上と、調査区東側に比べるとやや大型で深いものが多いことが特徴です。また、^{こんせき}火事などで焼けた痕跡のあるものも複数みつかりました（SI102 竪穴建物跡など）。

令和 6 年度も調査は続きますので、今後の調査成果にご期待ください！（宇庭 瑞穂）



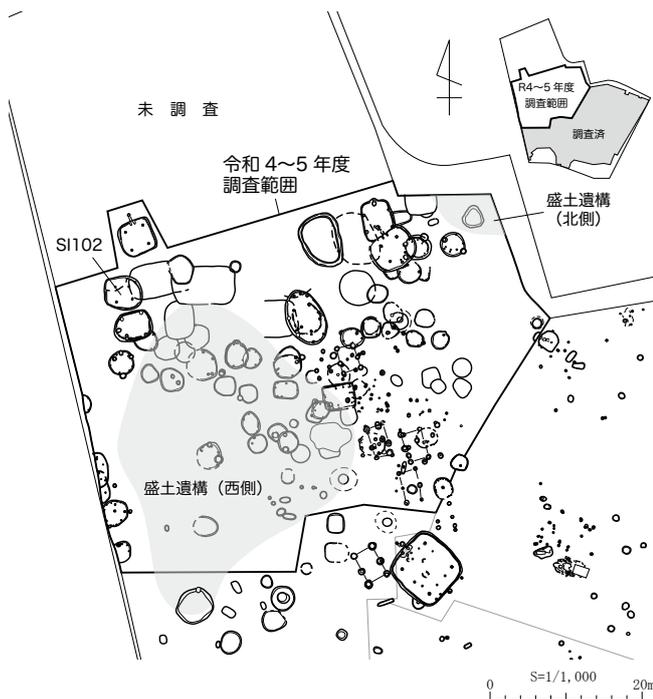
SI137 竪穴建物跡 土層断面
建物の凹地に盛土遺構の土が層状に積み重なっています。



SI102 竪穴建物跡 炭化材出土状況（黒いものが炭化材）
柱が地中に埋まったまま炭化したものもありました。



SK190 フラスコ状土坑



松ヶ崎遺跡第 11 地点遺構配置図（部分）

平安時代の集落を発見！～細越遺跡～

細越遺跡は、八戸市中心市街地から南東に約5km、新井田川支流の松館川に面する段丘の先端部に立地し、これまでに古代の遺物や中世の遺構が確認されています。調査期間は令和5年4月27日～5月31日、調査面積は120㎡です。遺構は^{たてあな}堅穴建物跡9棟、^{どこう}土坑3基、遺物は平安時代の^{はじき}土師器、^{すえき}須恵器、鉄製品、ウマの骨などの動物遺存体等がみつかりました。

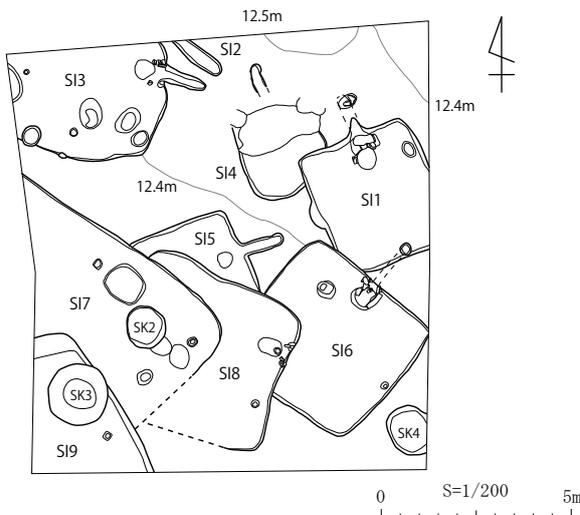
みつかった堅穴建物跡は、少なくとも5回にわたる造り替えが行われており、出土した遺物や堆積した火山灰から、平安時代の中でも9世紀代～10世紀中葉の間と考えられます。

堅穴建物跡の床面からは、鍛冶作業において熱した鉄を打ち叩く際に生じる、^{たんぞうはくへん}鍛造剥片と呼ばれる鉄片がたくさんみつかったことから、建

物の中で鉄製品の生産・加工が行われていたことがわかりました。

また調査区全体から、平安時代のウマやウシなどの骨がたくさんみつかりました。^{くつわ}轡を着けた痕があるウマの^{かがくこつ}下顎骨や、解体された痕のあるウマやウシの骨もあり、家畜として利用されていたと考えられます。

今回の調査では、狭い範囲に堅穴建物などの遺構が密集し、複数回にわたって建物の造り替えが行われたことから、人びとがこの土地に長期間暮らしていたということがわかりました。また、堅穴建物跡は調査区の外に続くものもあることから、周辺にも平安時代の集落は広がっていると考えられます。 (山田 貴博)



細越遺跡第2地点 遺構配置図



遺跡遠景 (南から)



ウマ下顎骨出土状況 (西から)



鉄製紡錘車出土状況 (西から)

奈良時代の大型^{たてあな}竪穴建物跡^{ものあと}～^{ささのさわ}笹ノ沢(4)遺跡～

笹ノ沢(4)遺跡は、八戸市中心部から北西約5.5 kmの、馬淵川^{まべち}と五戸川^{ごのへ}に挟まれた標高70 m前後の丘陵に立地しています。工業団地の開発に先立って、令和4～5年度に発掘調査を行いました。

令和5年度は、奈良時代の大型竪穴建物跡(SI11 竪穴建物跡)の調査を行いました。この建物は東西8.6m、南北8.8mの規模で、本遺跡だけでなく、馬淵川北岸地域の同じ時期のほかの集落の竪穴建物跡と比べても大型です。もし

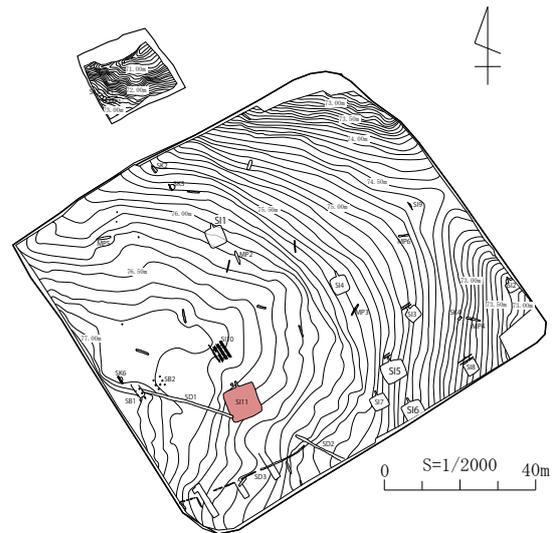
かすると、地域の有力者の住まいだったのかも知れません。

さらに、建物を一回り大きく広げたり、カマドの造り替えを行った痕跡もみられ、この建物は何度か建て替えされたと考えられます。

(上ノ山 拓己)



SI11 竪穴建物跡



笹ノ沢(4)遺跡遺構配置図
色をつけたところがSI11 竪穴建物跡

令和5年度遺跡調査報告会を開催しました

令和5年11月11日(土)に、八戸市内での遺跡発掘調査の主な成果を発信する遺跡調査報告会を開催し、市内外から約60名の参加がありました。

遺跡報告会では、縄文時代の松ヶ崎遺跡(十日市地区)、奈良時代の^{ささのさわ}笹ノ沢(4)遺跡(尻内地区)の2遺跡での発掘調査成果の報告しました。

また特別報告として、長谷川大旗氏(青森県埋蔵文化財調査センター)に^{ほうりょうばやし}法霊林遺跡(田面木地区)について、カマドの煙出し孔に^{ほうとうたち}方頭大刀が差し込まれた状態で発見された^{たてあな}竪穴建物跡を中心にお話しいただきました。

遺物展示会場では、松ヶ崎遺跡の縄文土器や石器、^{はしき}笹ノ沢(4)遺跡の土師器のほか、^{ほそごえ}細越遺跡(松館地区)の鉄製品や鍛冶の道具などを展示しました。

過去の報告会資料は是川縄文館のホームページに掲載しています。是非ご覧ください。(上ノ山 拓己)



法霊林遺跡の報告のようす



遺物展示会場のようす

これかわ 史跡是川石器時代遺跡の整備－整備実施設計－

八戸市では、是川石器時代遺跡を生徒学習や観光の拠点、憩いの場として活用していく「是川縄文の里」の整備を進めています。令和元年度から第1期整備として、中居遺跡を対象に史跡内の建物撤去工事を進めてきました。

令和5年度は、6年度から始まる整備工事に向けた実施設計を行いました。令和6年度は、実施設計をもとに遺跡を保護するための盛土や縄文時代の地形を復元する造成工事を行う予定です。

あわせて、整備スケジュールの見直しも行い、令和11年度に工事の完了、令和12年度に全面オープンを予定しています。工事完了までは、イベント時の見学ツアーなどでの限定公開となりますので、機会がありましたらぜひご参加ください。（船場 昌子）



是川遺跡完成予想図

これかわ 令和5年度是川遺跡出土品保存修理事業

八戸市では、貴重な文化財を良い状態で保存し活用するため、国庫補助金の交付を受けて、重要文化財「青森県是川遺跡出土品」の保存修理事業を進めています。平成23年度に重要文化財に追加指定された「青森県是川遺跡出土品」330点の中には、欠損部分や脆弱な部分があり、修理や補強を必要とするものがあります。特に漆製品や木製品は有機質で、状態が変化しやすいため、経過観察と適切な保存修理を継続的に行う必要があります。

令和5年度は、土器6点、漆製品2点、石製品12点、木製品5点の計25点の保存修理と保存台作成を行いました。修理では、細部の観察やX線撮影により状態を確認し、クリーニングを施した後に、それぞれの材質や状態に応じた修理が行われます。

保存修理を行うことによって文化財は安定した状態を保ち、本来の美しい姿がよみがえります。今後も貴重な文化財を未来に伝え残していくために、保存修理を進めていきます。（横山 寛剛）



修理前の状態（口径15cm・胴径21cm）



修理後
ヒビ割れ部分に樹脂を充填し着色
藍胎漆器の修理工程



より良い状態で保存するため、テグスを用いない台座に変更しました

亀ヶ岡文化第2回！「北陸の晩期縄文文化」

開催期間：令和5年7月15日（土）～9月3日（日）

令和5年度の特展は、^{これかわ}是川遺跡に代表される亀ヶ岡文化とその周辺文化を比較することを目的としたシリーズの第2回として、北陸地方の晩期縄文文化と、それに関する重要文化財67点を含む112点の優品を展示しました。

本展は、①北陸の縄文時代・②器でたどる北陸の晩期・③北陸縄文人の植物利用・④祈りのかたち・⑤亀ヶ岡インパクトの5つのテーマ構成としました。深鉢をはじめとする様々な形の土器や美しい漆塗り製品、他地域ではみられない形の^{どぐう}土偶・石製品といった出土品の展示に加えてハンズオン展示も行い、見るだけでなく触れて体感できる内容としました。

会期中には、ギャラリートーク8回のほか「北陸の縄文時代晩期について～巨大木柱と人びと～」と題した講座を開催し、北陸縄文人のくらしや亀ヶ岡文化との交流について、多くの方に関心を深めていただく機会となりました。（佐藤 ちひろ）

ぎよぶつ おきょうづか
御物石器（御経塚遺跡出土）

土偶（御経塚遺跡出土・重要文化財）



会場のようす

秋季企画展「掘り day はちのへー令和元～4年度発掘資料展」

開催期間：令和5年10月7日～11月26日

八戸市には491か所の遺跡が所在し、是川縄文館では年間40件程度の発掘調査を実施しています。令和元～4年度に調査・整理した主な遺跡の調査成果を155点の出土品から速報展示しました。

展示では、^{いちおうじ}一王寺遺跡・^{まつがさき}松ヶ崎遺跡（縄文時代）、^{さかみだい}酒美平遺跡（奈良時代）、^{ほうりょうばやし}法霊林遺跡・^{いし}石橋遺跡（平安時代）、八戸城跡（江戸時代）と、八戸市内のいろいろな時代の出土品を展示しました。

今回の企画展では、埋蔵文化財を身近に感じていただくことをめざし、拡大した八戸市内の遺跡地図を見て自宅が遺跡に該当するかのアンケートに答えるコーナーを設置しました。また、講演会のほか、^{どぐう}パントマイムで土偶を表現する「土偶マイム」、発掘調査や遺跡をテーマにした映画上映会などの併催行事を開催し、たくさんのお客様に楽しんでいただきました。（船場 昌子）



会場のようす



「みんなで土偶マイム」のようす

これかわの逸品④「籃胎漆器」らんたいしっき

かごを素地^{そじ}として漆^{うるし}を塗った容器を籃胎漆器といいます。籃胎漆器は、縄文時代後期の初めには作られはじめ、縄文時代晩期の終わりまで作られた、美しく、軽くて丈夫な器です。

縄文時代のかごは、大きさや用途に合わせて、樹皮やつる植物などの材料で作られています。籃胎漆器は、ササ類で作られています。これまで、漆がはがれた部分やX線写真からかごを素地としていたことがわかっていたのですが、X線CTスキャンと画像解析によって、漆が塗られる前の、かごの状態を透かしてみることができるようになりました。

分析の結果、中居遺跡^{なかい}の籃胎漆器の一つは、ササ類を1mm以下に割いて、飛びごぎ目で編んでいることがわかりました。中居遺跡の籃胎漆器は、驚くほど細かな技術で作られ、漆を塗って丁寧^{ていねい}に仕上げられた至高の一品といえます。これらは、令和6年度の夏季特別展にて公開予定です。

(小久保 拓也)



1年間を振り返って

是川縄文館に配属されてからあっという間の1年間でした。学芸員の仕事ははじめてのことばかりでしたが、上司・先輩方のご指導のおかげで乗り越えることができました。大変学びの多い1年間となりました。

特に印象深いことは、考古学クラブでの活動です。子どもたちに対して何かを伝えることははじめての経験で大変でしたが、やりがいのあるものでした。先輩方に助けてもらいながらではありますが、1年間の活動を無事終えることができました。いろいろと反省点がありますが、参加者から「おもしろかった」「もっと知りたいと思った」と言ってもらえたことが、とても嬉しく、達成感を感じました。この経験を糧に、学芸員として考古学や八戸の文化財の魅力伝えていけるよう、これからも励みたいです。

(澁谷 侑奈)



考古学クラブ (右: 筆者)



活動のようす (中央: 筆者)

令和5年度 八戸市発掘調査一覧

	遺跡名	調査	調査原因	調査面積 (m)	調査期間	種別/主な時代
市内遺跡発掘調査等事業	細越遺跡/ 細越遺跡第2地点	試掘調査/ 本発掘調査	個人住宅建築	14.80 /120.00	R5.4.4、5/ R5.4.27～5.31	散布地/奈良・平安
	熊野堂遺跡①/ 熊野堂遺跡第8地点	試掘調査/ 本発掘調査	個人住宅建築	53.50 /104.00	R5.4.12～14/ R5.5.8～25	集落跡/縄文・奈良・平安
	坂中遺跡	試掘調査	個人住宅建築	8.00	R5.4.17	散布地/縄文・奈良・平安
	沢ノ上遺跡/ 沢ノ上遺跡第2地点	試掘調査	太陽光発電 設備設置	76.00	R5.4.24～27	集落跡/弥生・奈良・平安
	市子林遺跡①	試掘調査	棟割長屋建築	64.00	R5.4.26～28	集落跡/縄文・古墳・奈良・平安・ 中世・近世
	盲堤沢(3)遺跡	試掘調査	個人住宅建築	12.00	R5.6.5	集落跡/縄文
	弥次郎窪遺跡/ 弥次郎窪遺跡第1地点	試掘調査	個人住宅建築	23.00	R5.7.3、4	集落跡/縄文・弥生・平安
	八戸城跡	試掘調査	個人住宅建築	10.00	R5.7.10、11	集落跡・城館跡/縄文・弥生・古墳・ 奈良・平安・近世・近代
	帽子屋敷貝塚隣接地	試掘調査	個人住宅建築	16.50	R5.7.24	貝塚/縄文
	新井田古館遺跡/ 新井田古館遺跡第36地点	試掘調査/ 本発掘調査	個人住宅建築	17.00 /83.40	R5.9.25、26/ R5.10.24～31	集落跡・城館跡/縄文・奈良・平安・ 中世・近世
	田面木遺跡	試掘調査	個人住宅建築	0.50	R5.10.13	集落跡/縄文・弥生・奈良・平安
	山内遺跡	試掘調査	個人住宅建築	8.00	R5.10.23	散布地/縄文・平安
	市子林遺跡②	試掘調査	集合住宅建築	76.00	R5.10.26、27	集落跡/縄文・古墳・奈良・平安・ 中世・近世
	館平遺跡	試掘調査	個人住宅建築	12.00	R5.11.8	集落跡・城館跡/縄文・平安・中世
	糠塚遺跡	試掘調査	個人住宅建築	6.00	R5.11.22	散布地/縄文
	骨沢(1)遺跡	試掘調査	太陽光発電 設備設置	18.00	R5.12.1	貝塚/縄文
	熊野堂遺跡②/ 熊野堂遺跡第9地点	試掘調査/ 本発掘調査	個人住宅建築	12.00	R5.12.2/ R5.12.19～21	集落跡/縄文・奈良・平安
	重地遺跡	試掘調査	個人住宅建築	21.00	R5.12.21	集落跡/縄文
	千石屋敷遺跡隣接地	試掘調査	個人住宅建築	19.50	R5.12.22	集落跡/縄文・中世・近世
	中居遺跡	現状変更 判断調査	電柱移設	1.47	R6.2.14	集落跡/縄文
	松長根遺跡	試掘調査	個人住宅建築	12.00	R6.3.13～15	散布地/縄文
	塩入遺跡	試掘調査	個人住宅建築	1.00	R6.3.22	散布地/縄文・平安
	松ヶ崎遺跡第11地点	本発掘調査	長芋作付け	1,098.00	R5.4.14～12.6 R6.3.5～27	集落跡・貝塚/縄文・奈良・平安
受託事業	笹ノ沢(4)遺跡	本発掘調査	工業団地開発	2,558.40	R5.4.4～6.30	集落跡/縄文・奈良・平安
	八戸城跡第55地点	本発掘調査	道路改良工事	60.00	R5.9.4～10.24	集落跡・城館跡/縄文・弥生・古墳・ 奈良・平安・近世・近代
	八戸城跡第54地点	本発掘調査	道路改良工事	100.00	R5.10.16～31	集落跡・城館跡/縄文・弥生・古墳・ 奈良・平安・近世・近代

《令和5年度 調査事務局》

八戸市教育委員会

教育長 齋藤 信哉
 教育部長 八木田 満彦
 教育次長兼教育総務課課長

鈴木 伸尚

是川縄文館長 中村 行宏
 副館長 松橋 広美

《埋蔵文化財グループ》

参事(埋蔵文化財GL)

渡 則子

主査兼学芸員 横山 寛剛

主事兼学芸員 上ノ山 拓己

主事兼学芸員 宇庭 瑞穂

主事兼学芸員 山田 貴博

発掘専門員 小笠原 善範

発掘専門員 宇部 則保

事務員 荒川 直美

《縄文の里整備推進グループ》

副参事(縄文の里整備推進GL)

小久保 拓也

主 幹 石塚 昌範

主 幹 船場 昌子

主事兼学芸員 落合 美伶

主事兼学芸員 佐藤 ちひろ

主 事 関根 柔和

主事兼学芸員 菊地 智慧

主事兼学芸員 澁谷 侑奈

主事兼学芸員 大野 亨

事務員 下沢 雅代

事務員 栗谷川 恵美

事務員 鈴木 麻琴



《令和5年度刊行》

八戸市埋蔵文化財調査報告書

第185集 石橋遺跡第12地点

第186集 八戸市内遺跡50

掘りday はちのへ 第27号

発行年月日 令和6年6月14日
 編集・発行 八戸市埋蔵文化財センターは川縄文館
 〒031-0023
 青森県八戸市大字是川字横山1
 TEL 0178(38)9511
 E-mail jomon@city.hachinohe.aomori.jp
 ホームページ https://www.korekawa-jomon.jp
 印刷 大東印刷株式会社
 〒039-1103
 青森県八戸市長苗代内舟渡102-14
 TEL 0178(28)2348
 印刷部数: 1,000部 印刷経費: 1部当たり99.0円